

かみ・カミ・紙 ～谷内つねおとつくる～の記録

かみであそぶ

2016年7月27日(水)
午前10時～午前12時
田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室
対 象 幼児(4才)～小学2年生
参加者 30名
主 催 田辺市立図書館



「かみであそぶ」「紙でかんがえる」の作品の展示

公開期間 2016年7月29日(金)～8月24日(水)※月曜日休館
場 所 田辺市文化交流センター「たなべる」交流ホール
開館時間 火曜日～土曜日 午前9時30分～午後7時30分
日曜日・祝 日 午前9時30分～午後6時

紙でかんがえる

2016年7月28日(木)
午前10時～午前12時
田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室
対 象 小学3年生～小学6年生
参加者 50名
主 催 カルチャーofキッズ
(地域福祉活動推進事業助成金事業)



かみであそぶ

主催 田辺市立図書館 (7月27日)

カミの虫・かみの森

2016年11月19日(土)
午前10時～午後3時(昼休憩1時間)
熊野古道なかへち美術館展示室
対 象 中学生以上
参加者 24名
主 催 田辺市立美術館



「カミの虫・かみの森」で生まれた《熊野の森》

公開期間 2016年11月20日(日)～11月27日(日)
場 所 熊野古道なかへち美術館展示室
開館時間 午前10時～午後5時



紙でかんがえる

主催 カルチャーofキッズ (7月28日)

谷内 つねお (谷内庸生)

1953年、和歌山県田辺市に生まれる。日本大学芸術学部を卒業した後、デザイン会社に勤務。1978年からアメリカに渡り、デザインの仕事をしながら「紙彫刻」を始める。1982年、ボストンにデザインスタジオを設立し、ニューヨーク近代美術館、ボストン美術館、ハーバード大学などのデザインを手がける。1986年からデジタルエクイップメントコーポレーションに勤務(シニアアートディレクター)。1989年に帰国し、造形表現の講師として大学で指導にあたる他、紙を用いたワークショップを数多く開催。

現在は神奈川県真鶴町を拠点にして現代アート、デザインの仕事に携わっている。

作品集に『かみ彫刻』(玄光社/1985年)、『かみ彫刻・2』(玄光社/1987年)、『カミ・かみ・カミ』(平河出版社/1992年)などがあり、子どものための本として『わらった おこった ないた——紙ちょうこく100の顔』(福音館書店/1996年)、『おいかけっこ』(福音館書店/2000年)、『かみちゃん』(大日本図書館/2011年)などが多数出版されている。



カミの虫・かみの森

主催 田辺市立美術館 (11月19日)

2016年田辺市立図書館・田辺市立美術館・カルチャーofキッズ連携事業
かみ・カミ・紙～谷内つねおとつくる～の記録
2017年3月3日 発行
編集・発行 田辺市立図書館 (tel.0739-22-0697)
田辺市立美術館 (tel.0739-24-3770)
カルチャーofキッズ (tel.080-9690-1091)

「かみであそぶ」「紙でかんがえる」「カミの虫・かみの森」を終えて

谷内 庸生

かみ・カミ・紙～谷内つねおとつくる～

仲 道子

私の谷内庸生さんとの出会いは、『しろいかみのサーカス』(福音館書店刊)でした。「すごい!こんなふうによく遊びながら紙の特性を小さな子どもたちに知らせることができるなんて!」田辺市立図書館(旧館)の小さな児童室で驚きと嬉さに満たされたのは、2005年の頃だったと思います。その後谷内さんが田辺市出身の方と知り、「いつかぜひお目にかかりたい」と願っていました。

時は流れて2012年2月4日、図書館は新築の田辺市文化交流センター「たなべる」1階に移転オープンしました。明るい陽射しが窓ガラスから降り注ぎ、紀州材の木の香に包まれる新図書館は、田辺市民の方はもとより近隣市町からも多くの方が訪れてくださる場所となりました。この「たなべる」で谷内庸生さんのワークショップを開催したいという夢は日に日に膨らんでゆきました。そしてついにチャンスは到来しました。2015年1月24日、熊野古道なかへち美術館で始まった『森に棲む色・音・形COYO+谷内庸生 インスタレーションによる熊野の森へのオマージュ』の会場で、谷内さんにお目にかか

ることができたのです。ワークショップ開催の突然のお願いに、「ばくも一度図書館を訪ねようと思ってたんだよ。やりましょう!」とご快諾をいただきました。

今後この地域に根付いてゆく催しにしたいという思いから、図書館単独ではなく他機関との連携事業として進めたいと考え、田辺市立美術館、カルチャーofキッズに相談しました。両者とも以前より図書館との連携を積極的に提案、実行してくださっていて、この三者による連携はきっと成功するという確信がありました。こうして実現したのが『かみ・カミ・紙～谷内つねおとつくる～』です。

「たなべる」で開催した第1回・第2回では、子どもたちが紙の不思議、おもしろさ、おどろくほどの強さを知り、存分に紙で遊び、考え、自由自在にすごい「顔」を作りだしてくれました。「たなべる」交流ホールでの作品展も、谷内さんの指導で予想以上にすばらしい空間となりました。

さらに熊野古道なかへち美術館で開催の大人を対象とした第3回ワークショップでは、「紙で何か作るなんて久しぶり…」という参加者の方々がユニークな虫たちを次々と作り出し、それを谷内さんとともに展示室に設置

して、みんなの作品《熊野の森》を誕生させました。この作品はその後一週間公開し、見に来られた方も自由に虫を作って追加してゆけるようにしたことで、《熊野の森》はまるで生き物のように変化し続けました。

イメージに形を与え、出来上がった作品と対面する喜び。さらに自分の作品が他の人の作品と共鳴して別の世界を作り出すのを見る驚き。今回の紙のワークショップによって、子どもも大人もそれぞれの心の土壌に「創造のよろこびの種」を撒かれたのではないのでしょうか。

谷内庸生さん、そして参加者の皆さんと、こんなすばらしい体験を共有できたことに心から感謝し、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

(なか・みちこ/田辺市立図書館司書)

谷中さんのアイデアによるチラシ



熊野古道なかへち美術館にて

紙は読んだり、包んだり、燃やしたり、身近な紙は、なくてはならない必需品。しかし紙の使われ方は時代とともに変わりつつある。紙でいったい何を伝えられるんだろう、そんな紙でいろんなことを考えてみよう、数年前から実験的に試みているワークショップ。

探ってみよう。科学しよう。哲学だって可能。身近な紙を素材に、創る楽しさ、考えるおもしろさ、科学する気持ち、あそぶこと、自画像の展開、具象から抽象へ、

子供たちは、素直な気持ちで私のステージと一緒に参加し、自分の意見を言い、考え、あそんでいる様子がとても印象的であった。一方、大人たちは、作品を抽象化する過程が難しかったが、最終的には、個性的な作品ができ、かみの森にインストールして、すばらしい空間が生まれた。

創る楽しさを伝える力的確なチームワークが成功へと結びついた。

かみ・カミ・紙～谷内つねおとつくる～の経過

2015年9月	連携事業の開催について協議開始 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ	7月26日	谷内庸生と協議・準備 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ ・田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室
2016年1月7日	谷内庸生と協議 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ ・田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室	27日	田辺市立図書館主催「かみであそぶ」開催 ・田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室
13日	谷内庸生と協議 ・カルチャーofキッズ ・谷内庸生アトリエ(田辺市)	28日	カルチャーofキッズ主催 「紙でかんがえる」開催 ・田辺市文化交流センター「たなべる」2階大会議室
16日	会議 ・図書館・カルチャーofキッズ ・田辺市立図書館応接室	7月29日～8月24日	「かみであそぶ」「紙でかんがえる」でつくった作品を公開 ・田辺市文化交流センター「たなべる」交流ホール
28日	会議 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ ・田辺市立図書館ボランティアルーム	7月29日	谷内庸生と協議 ・美術館 ・田辺市立美術館会議室
2月20日	会議 ・図書館・カルチャーofキッズ ・田辺市立図書館応接室	11月17日	谷内庸生と協議・ワークショップの準備 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ ・熊野古道なかへち美術館
3月15日	谷内庸生と協議 ・美術館 ・谷内庸生アトリエ(神奈川県湯河原町)	19日	田辺市立美術館主催 「カミの虫・かみの森」開催 ・熊野古道なかへち美術館展示室
23日	会議 ・図書館・美術館 ・田辺市立図書館ボランティアルーム	20～27日	「カミの虫・かみの森」で生まれた《熊野の森》を公開 ・熊野古道なかへち美術館展示室
5月20日	会議 ・図書館・美術館 ・田辺市立図書館ボランティアルーム	2017年1月13日	会議 ・図書館・美術館・カルチャーofキッズ ・田辺市立図書館ボランティアルーム
27日	会議 ・図書館・カルチャーofキッズ ・田辺市立図書館応接室	3月 3日	報告書発行
7月 1日	チラシ発行		